

うわじまの新たな魅力を広め鯛

～特産品を使った新商品の開発～

佐々木和
上中桜

山内双雲 善家悠成
田村菜々

指導者：有元慶子

研究背景と課題

宇和島市は、みかんやキウイの生産量が全国的にも有名である。しかし、少子高齢化の影響で、宇和島市の農家も高齢化や後継者についての問題は深刻な課題である。そこで私たちは、柑橘や特産品の新たな活用方法を見出し、他県との差別化を図るとともに、地域活性化につなげたいと思い、研究することとした。

研究方法

- ①農家への聞き取り
- ②先行研究である3年生がan blissさんと共同開発したたい焼きの調査
- ③マルシェで販売した際のアンケート結果をもとに、改良方法の検討

農家へのインタビュー

- ・50歳ぐらいでもミカン農家の中では若いと言われている。若い世代は少ない。
- ・通信販売などに挑戦したいが高齢者には難しい。

マルシェ後のアンケート結果

値段	ロゴマーク	チラシ	大きさや量	見た目
3.8	4.2	3.9	4.3	4.3

マルシェで実施したアンケートでは、各項目最大5点中4点前後の平均でおおむね良好であった。「白あんと生クリームの相性がよかった」、「みかんとキウイが宇和島らしくてよかった」など好評であった。一方で、「生地が硬くてパサパサしていた」という記述も目立っていた。an blissさんの生地は温かい状態で食べることを想定して作られており、今後改良の余地があることが分かった。



今後の研究

柑橘やキウイ農家の方への聞き取りや、農地の見学などを通じて、農家の方が抱える課題や特産品である柑橘やキウイの活用方法についての研究も深めていきたいと考えている。また、先輩たちが開発したたい焼きについて、マルシェで得られたアンケート結果をもとに、味や見た目などの改良にも取り組んでいきたいと思っている。さらに、文化祭や地域イベントなどで定期的に販売することを目標に取り組んでいきたい。

